

水稻の高温対策を実施しましょう

「土づくり編」～暑さに負けない米づくり～

登熟期間中に高温が続くと、未熟粒が発生しやすくなり、水稻の収量・品質が大きく低下することが心配されます。

今こそ、暑さに負けない米づくりを目指し、その基本となる「土づくり」に取り組みましょう。

「高温耐性品種」でも重要なポイントです!

土づくりの効果


✓ 地力が向上し根張りが良くなる

✓ 収量や品質が安定する

3つのポイント

① 有機物を入れましょう!

稲わらのすき込み



秋に実施
しっかり腐熟、メタン発生防止

堆肥の施用



毎年施用
↓
連用効果

牛ふんの場合
1t/10a程度

緑肥 ヘアリーベッチ



レンゲ

通気性、排水性アップ
堆肥の施用が難しい場合はオススメ

② 土づくり資材を入れましょう!

倒れにくく、病気に負けない
光合成能力の高いイネ

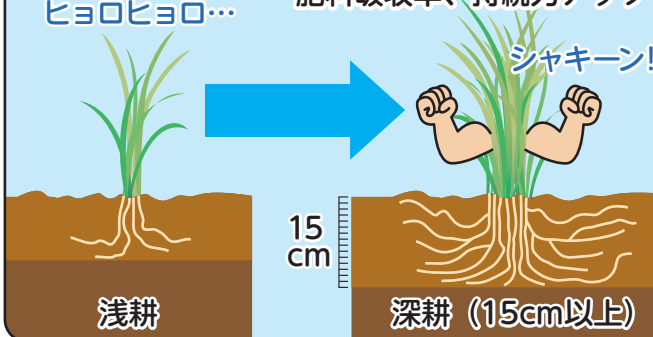


ケイ酸
補給
鉄分

根傷みからイネを守る

③ 深耕をしましょう!

肥料吸収率、持続力アップ



ヒョロヒョロ... シャキーン!

浅耕 15cm 深耕 (15cm以上)

※稲わらは焼かずにすき込んで、有効に利用しましょう!

県内土づくり実践農家の声

毎年有機物を入れており、収量・品質が安定していて、1等米比率が維持できている
極端な肥料切れがおきにくいので、ねらった時期に追肥ができています



岡山県地域稲作戦略推進会議

(事務局：岡山県農林水産部農産課 TEL：086-226-7424)

